

鈴木代表理事 巻頭言

「オトナはそんなコトは言うもんじゃないと思っていたヒトが変わり始める兆しを感じます
-外務省の気候変動に関する有識者会合について-



前月からの続報です。私が委員を務める外務省の「気候変動に関する有識者会合」http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/press4_005491.htmlが、昨日（2/19）エネルギーに関する提言を河野大臣に手渡ししました。今回はエネルギーに関しての、最終の4月には気候変動全般についての提言をします。

1月9日からほぼ毎週集まり、毎回2~3時間の真剣かつ熱い議論を積み重ねてきました。ありがちな事務局主導、つまり、官僚が作った案を追認するという形ではなく、全く何もないところから議論を始め、委員の皆さんと創り上げてきたものです。政府のエネルギーの議論に間に合うようにと、実質的には一か月ちょっとでまとめました。手前味噌ですが、委員のそれぞれの専門からの知見が活かされた内容だと自信を持って出せるものになったと思います。

世界の潮流から取り残され、このままでは国際社会から声がかからなくなるという危機感をベースに、データと事実と裏打ちされた、経産省とも環境省とも一味違う外務省ならではの意見をと、強く意識してまとめました。

「はじめに」で私たちの問題意識を、
「日本を取り巻く世界の状況」で今、世界はどうなっているのかを、
「エネルギーから見た世界の中の日本」で、遅れている日本の現状を、
そして、
「提言：気候変動対策で世界を先導する新しいエネルギー外交の推進を」で
わが国のとるべきアクションを以下の3つの柱で述べています。

1. 再生可能エネルギー外交を推進する
 - 1) 気候変動対策で世界に貢献し、日本の経済・社会の発展につなげる
 - 2) 持続可能なエネルギーで途上国の未来に貢献する
 - 3) 多様な非国家アクターの国際舞台での活動を支援し、協働する
2. エネルギー転換の実現へ、日本の道筋を確立する
 - 1) エネルギー効率化と再生可能エネルギーを脱炭素化の中心におく
 - 2) パリ協定と調和した脱炭素社会へ
 - 3) 「原発依存度を可能な限り低減する」、この原点から出発する
3. 脱炭素社会の実現をリードし、新たな経済システムを構築する
 - 1) 日本の潜在力を引き出し、世界の最前線へ
 - 2) 脱炭素化へ責任ある投融資の推進
 - 3) 地域分散型エネルギーモデルで世界に貢献する



全編は外務省の HP をご覧ください。

http://www.mofa.go.jp/mofaj/ic/ch/page22_002958.html

メディアにも取り上げられています。

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20180219/k10011335401000.html>

<https://headlines.yahoo.co.jp/videonews/jnn?a=20180220-00000003-jnn-pol>

私は、地域の暮らしを下支えする中小企業の立場で、持論である、

1. 経済活性化策として「再生可能エネルギーの地産地消」の優位性
2. 中小企業での省エネの推進の重要性
3. 電力だけに偏りがちなエネルギーの議論での熱の重要性

を繰り返し、お話ししてきました。

世界に向けて「こうあるべき!」「こうしましょう!」と言うなら、まず、自分の国で実践していなければ、その声は説得力を持たないと思います。その意味で、「実践のネットワーク」を標榜するわがエネ経会議の役割はますます大きいと思います。

そして、今回強く感じたことは、エネルギーに関して、いや、エネルギーに限らず、いろいろな理由で議論を避ける傾向にある世の中のムードが、逃げずに、知らぬふりせず、自由にモノを言っているんだという方向に変わる兆しです。

この提言が自由な議論の幕開けになれば、嬉しい限りです。エネ経会議の会員の皆さまが、それぞれの現場でそれぞれのお立場での活発な発信と議論を仕掛けてくださることを大いに期待しております。

追申：今月号は、この提言の中身をお知らせしたく、大臣への提出の時期を待つて配信しました。遅くなって申し訳ありませんでした。

今後の予定(鈴木代表)

2月14日(水) 10時～	気候変動に関する有識者会合(外務省本省)
2月16日(金) 19時30分～	原発ゼロ基本法タウンミーティング(ワークピア横浜)
2月18日(日) 14時～	エネ経氷見勉強会(富山県 氷見市漁業文化交流センター)
2月21日(水) 午後	持続可能経済協会シンポジウム(東京大学)
2月22日(木) 8時30分～	エネ経事務局会議(鈴廣)
2月23日(金) 6時～	平塚法人会モーニングセミナー(ホテルサンライフ・ガーデン)
2月25日(土) 13時～	松田町エネルギー革命(神奈川県 町民文化センター)
2月27日(火) 14時～	東北地方勉強会(仙台 阿部かまぼこ)
3月3日(土) 15時～	エネ経理事会(都内)
3月5日(月) 15時～	気候変動に関する有識者会合(外務省本省)
3月11日(日) 10時～	おひさまマルシェ 2018
3月11日(日) 19時～	藻谷様の講演
3月29日(木) 10時～	気候変動に関する有識者会合(外務省本省)



3月30日(金)	気候変動に関する有識者会合 in 小田原
5月26日(土)	エネ経総会(東京 紙パルプ会館)
7月14日(土)	ソーラーシェアリングサミット(神奈川県 梅の里センター)
7月15日(日)	
9月2日(日) 午後	鎌仲様上映会・エネルギートークセッション

全国ご当地エネルギーレポート

「ガラガラなのに「空き容量なし」？送電線空き容量問題とは!？・安田陽さん(vol.110)」

ご当地電力などが再エネ設備を設置する際に、最大の課題となっているのが「接続拒否」問題です。今後のご当地エネルギーの命運を握る送電網の空き容量問題について、安田先生に伺いました。...[詳細はblogから](#)



今後の催しものなどのご案内



「始動!! 松田エネルギー市民革命」

エネ経会議では、神奈川県松田町で地域の自然資源を活用したエネルギーを核とした街づくりを進めています。その一環で2月25日(日)にシンポジウムを開催します。[詳しくはこちらをご覧ください。](#)

また、その工程の進捗にともない、急遽、山梨方面への視察を行うこととなりました。10名ほど席が空いておりますので、ご興味のある方はどうぞご参加ください。[詳しくはこちらをご覧ください。](#)



勉強会
SEMINAR WORKSHOP

全国各地方にて実施中
北海道～東北～北陸～中部～九州

2月27日(火)は東北地方勉強会

2017年度、春の名古屋から始まり、～鹿児島～金沢～札幌と全国各地で行ってきた今年度最後の勉強会は、東北の地、仙台にて行われます。

[詳細はこちらのページをご覧ください。](#)



小泉純一郎講演会「日本の歩むべき道」

3月9日(金)に表題の小泉純一郎講演会「日本の歩むべき道」が、集英社新書「決断の時―トモダチ作戦と涙の基金」の刊行記念として、都内「紀伊国屋サザンシアターTAKASHIMAYA」にて開催されることとなりましたので、ご案内いたします。

[詳細はこちらのページをご覧ください。](#)

5月26日(土)は 2018年度会員大会!

年に一度の会員大会は、5月26日(土)銀座紙パルプ会館にて開催いたします。日々お忙しいところ大変恐縮ではございますが、万障お誘いあわせのうえご来場くださいますようお願いいたします。(伴い、会員大会前に同場所にて理事会および社員総会も行います)

※最終のプログラム内容および時間帯のご案内については、2018年度に入り4月以降にての公表を予定しております。

新書「エネルギーから経済を考える」絶賛発売中



合同出版社発行「エネルギーから経済を考える」につきましては、おかげさまで持ちまして発刊 5000部が完売となり、それを機にエネ経会議にて出版部を立ち上げ、新書判を3000部発刊いたしました。

(※新書判は、2013年11月1日発行「エネルギーから経済を考える」を新書判にしたもので、内容は発行当時のものです)

お値段も、旧書 1,620円(税込み) から 新書 960円(税込み) とプライスダウンいたしました。

[ご購入の申込みはこちらから](#)



〔会員の皆さまへお知らせ〕

次回、2018年度の年会費のお支払につきまして、お振込みからお振替え（銀行引落）にご変更される会員さまは、事務局石黒までご連絡ください。

お手続きをいたしますので、ご登録の住所へ振替申込書をご郵送いたします。

また、会員情報の変更等（住所や連絡先など）がある場合にはご変更をお願いいたします。会員情報は、<https://secure842.sakura.ne.jp/enekei.jp/login/>よりご変更いただけます。

※本配信のHTML版メルマガとは掲載内容等、一部異なりますのでご了承ください

今号以上